



自分だけじゃ…

子どもたちに対して指導をすると、「自分だけじゃなく、他の人もしてる。自分だけ叱られるのは…」という子に出会うことがあります。

この子の理屈、どこかで見聞きしたような気がして、気づきました。交通違反をして警察官に反則切符を切られた人が「他にも違反してる人はいるだろ！」と警察官に不平不満を漏らしている場面です。

これは、みんなが違反をしているから自分も違反をしてもいいはずだという理屈になります。どう考えてもズレています。

大事なことは自分が犯した違反を反省して、今後は安全運転をしようと改めることです。そこにドライバーとしての成長があるはずです。

話を冒頭に戻します。「自分だけじゃない…」という言い訳や不平不満をまき散らすのは、自分は反省しません。また同じことをします。人間的成長する機会を手放しますと言っているようなものだと思います。

人がどうこうではなく、自分の行為をきちんと反省して同じことを繰り返さないように生活を改めることが大事なことです。叱られたということは、ある意味成長するチャンスを得たということです。

何をしても叱られず、自分の理屈ばかりを通し、他人の気持ちを慮ることもなく社会に出た人ばかりになったらどうでしょうか。

もちろん、感情に任せたり、何のフォローもない理不尽な叱り方はNGですが、子どもの改善点を指摘し、注意程度ですませられることから命や人権をないがしろにするような行為は絶対ダメだというような強い姿勢で臨むことまで幅広く指導し、最後は諭すということは私たち大人の大切な役目の一つだと思っています。

今から約 2500 年前の中国の哲学者 孔子 の言葉です。

「過ちを改めざる これを過ちという」

(よくないことをして、反省せず正さないことこそがよくないのだ)